

## 5. 環境学習の推進

(1) 学びの場づくり (2) 自然とのふれあい事業の推進 (3) 飯田市のイメージづくり及び情報発信 (4) 市民参加の推進	(リーディング事業) 5-1 e・c・o☆キャンペーンの展開 5-2 みんなで考え育てる いいだ環境物語
--	--

### 「特集」

#### ○「明日の環境首都賞」を受賞しました

最終回の第10回を迎えた平成22年度「日本の環境首都コンテスト」において、飯田市は822点（前回第2位709点）を獲得し、総合第2位となりました。また、人口別（10万人以上～30万人未満）では、第1位（前回同位）となりました。

今回、総合第1位を獲得した熊本県水俣市が、コンテスト始まって以来、初めて「日本の環境首都」となりましたが、飯田市は「環境首都」に匹敵するとの評価を得て、「明日の環境首都賞」を受賞しました。

#### 『日本の環境首都』の条件

※下記①～④すべてを満たすこと

- ① 総合1位であること
- ② 総合点が満点の70%以上であること（714点以上／1020点満点）
- ③ 15分野中、3項目以上が満点の90%以上の点数を得ていること
- ④ 15分野中、満点の50%以下の点数の項目が3項目以下であること



「明日の環境首都賞」受賞式の様子

飯田市は、上記条件について、②総合点が満点の70%以上の714点以上であること（飯田市822点、水俣市827点）、③3項目以上が満点の90%以上の点数を得ていること（飯田市は4項目が90%以上、水俣市は3項目）、④50%以下の点数の項目が3項目以下（飯田市50%以下なし）については、条件を満たしているものの、総合得点で水俣市に僅か5点及びませんでした。

「持続可能な地域社会を創る日本の環境首都コンテスト」は、1990年代ドイツで始まった取り組みがモデルです。環境NGOがドイツ国内自治体を評価する試みを、日本の環境NGOが参考として平成13年度から始まりました。「NPO法人環境市民」が中心となり全国12の環境NGOによるネットワークが主催しました。

環境首都コンテスト開催の趣旨は、地球的規模で深刻化する環境問題に対し、基礎自治体が持続可能な地域社会を実現するために、どのような政策や取り組みを進めているかを第三者が評価するものです。今回の結果を受けて、飯田市の政策を環境の視点からさらに充実させ、世界の叡智が結集する「小さな世界都市」を目指し、リニア時代を見据えた「環境モデル都市づくり」を進めていきます。

5 環境学習の推進

(1) 学びの場づくり (学校の取組み)

学校名	アルミ缶、牛乳パック等回収	ごみ拾い登校・地区内ごみ拾い	電気使用量、ごみ排出量、給食残滓等調査	花の栽培	水稲、野菜等栽培	ペレットストーブ導入(~22)	雨水利用タンク導入(~22)	太陽光発電導入(~22)	環境学習の取組み	学校いいむす実施項目	総合学習の取組み	環境に対する効果
丸山小学校	○	○	○	○	○	5台	1台	1台	・ごみ焼却場、最終処分場見学(4年生) ・ペットボトル再生、新聞紙再生工場見学(4年生) ・環境委員会によるアルミ缶、牛乳パック集め	灯油、電気、水道、紙使用量の削減。紙は各クラスごと分別をきちんとして再生紙、古紙と分類し、燃えるごみの削減にも取り組んでいる。	農業体験の重視(野菜・米・花づくり)	ペレットストーブは、23年3月末に納品(4台)1台は支援5組で使用
追手町小学校	○	-	○	○	○	○	1台	-	・地域のごみ拾い(3年生) ・ごみ処理場・浄水場の見学(4年生)	・灯油、電気、紙、水道の使用量の月ごとのチェック ・アルミ缶、牛乳パック回収、給食残菜、トイレトペーパー使用量、4視点を重点と決め取り組んでいる。	・野菜の栽培(全学年、特別支援学級) ・稲づくり(5年)	野菜作り、米作りから地域の人たちとの関わりを持ち、自然の恵みを感じることができた。
浜井場小学校	○	○	○	○	○	1台	-	-	・校内の水道ボタボタ調べ(3年生) ・朝ごみ拾い登校(児童会) ・牛乳パック、ペットボトルふた、アルミかん集め(児童会) ・総合的な学習の時間においてケナフの栽培(4年生)	・灯油・電気・水道・紙使用量の削減 ・白紙をリサイクルへ(業者へ取引依頼)	・畑で野菜を作り、調理をし、生活に役立てる。 ・遠山・上村地区の人々との交流、宿泊体験を通し、生活の知恵、心の交流を学習(5年生)	・給食残滓の量が減ってきた。 ・学校いいむすの取組は日常生活に定着してきた。
鹿光寺小学校	○	○	○	○	○	1台	1台	-	・ごみ処理に関わる施設、事業所の見学(グリーンハレー最終処分場、桐林グリーンセンター、サンヒルスイーだ、前田産業)(4年生) ・野菜や花の栽培活動(全校) ・学校周辺の林(南本城跡、遊びの森等)を利用した自然体験や遊び、地域の探検活動(低学年) ・学校いいむすの取組み(「地球に優しくできたかなカード」による振り返り等)(全校)	・灯油、電気、水道、紙使用量の削減 ・分別用ごみ箱の全教室設置によるゴミの削減 ・グリーン商品の購入 ・「地球に優しくできたかなカード」による自己の振り返り ・資源回収	・南本城跡・恐竜ランド・遊びの森で遊ぶ、野菜の栽培、胡桃を使った工作や菓子作り(1年生) ・野菜の栽培、(干し柿作り、蚕の飼育、ウサギの飼育)(2年生) ・野菜の栽培、地域の学習(3年生) ・野菜の栽培、地域探検(昆虫探し、キノコ探し)、地域のゴミ調査、廃油石けん作り、(こんにやく作り)(4年生) ・米づくり、野菜の栽培(5年生) ・菊づくり(6年)	・「地球に優しくできたかなカード」を使って、年3回自分の環境保護活動を振り返ることにより、環境への意識付けが進んでいる。 ・児童会「エコ委員会」が毎日当番制でゴミステーションに立ちごみの分別を実施。また、全学年に分別用ゴミ箱を設置したことにより、子どもたちはごみを分別することが当たり前になっている。 ・低学年の頃から学校周辺の林で遊び、探検をしてきているので、草花や昆虫類に親しみを感じている子どもが多い。また、栽培活動とその収穫祭を通して、自然の恵みのありがたさを心から感じ取ることができている。
松尾小学校	○	○	○	○	○	2台	1台	-	・ごみ焼却場見学(4年生) ・最終処分場見学(5年生) ・諏訪汚水処理場見学(4年生) ・紙の再利用(1年生) ・浄水場見学(4年生) ・理科「人間と環境」学習(6年生) ・理科「物の燃え方と空気」学習(6年生)	・灯油、電気、水道、紙使用量、ゴミの削減 ・毛賀沢川の水環境調査 ・牛乳パック、ペットボトルキャップの回収	・松尾地区の水環境調査 ・毛賀沢川の水環境調査 ・松尾の井水を調べよう ・ごみの処理と再利用	・ごみの分別が身に付いた。 ・松尾の水環境に関心を持つことができた。 ・松尾の井水にいる生物に関心を持った。井水の水環境をきれいに保つためにはどうしたらよいか考えることができた。 ・普段何気なく使っている水について関心が持て学習が深まった。
下久堅小学校	○	○	○	○	○	7台	-	-	・ごみ焼却場、最終処分場見学(4年生) ・グリーンカーテンとなる植物の栽培 ・理科の学習で太陽光の利用について学習し(4年生)、太陽炉で温水を作り清掃等に利用する。 ・ピオトープ(しあわせの池)を活用しての、動物とのふれあい	・灯油、電気、水道、紙使用量のチェックと削減の取り組み ・節電、節水の呼びかけ	・全校での紙漉体験、コウソウトローアオイなど紙の原料になる植物の栽培、和紙を使った作品作り、手漉きの卒業証書作り ・米作り、野菜作り ・地域の保存会の指導を受けながら、桜(梶曲輪の桜)の種まきや苗木の育成 ・学校林を活用した「きのご栽培」「自然体験活動」	「紙漉体験」や「梶曲輪の桜の保存活動」等を通して、地域の伝統や地域の人の思いに触れ、地域の豊かな環境や伝統を守り受け継いでいこうとする気持ちを育むことができた。
上久堅小学校	○	○	○	○	○	6台	-	-	・ごみ焼却場、最終処分場見学(3、4年生) ・メダカ池でのメダカの飼育及び観察の継続(5年生) ・柏原地区カンアオイ群生地におけるギフチョウ飛来調査(6年生) ・カブト虫等幼虫飼育用チップ置き場の設置	・灯油、電気、水道、紙使用量の削減 ・給食の残りなどを残滓処理機を使用し、畑にまく堆肥にしている	・学友林の下草刈り ・椎茸などの駒打ち作業とその栽培 ・土久堅の土を使った土器づくりと野焼き ・野菜栽培(さつまいも、だいこん・トマトなど)、花の栽培、学校花壇の花の苗移植(全学年)アサガオ(1、2年生) ・古代米の栽培(5年生)	・椎茸などの駒打ち作業とその栽培を体験することで、森林資源の豊かさを学ぶことができた。また、地域の資源や良さに目を向けることができた。 ・自然環境に働きかけたり、先人の知恵を体験的に学習したりすることを通してその良さに触れることができた。

学校名	アルミ缶、牛乳パック等回収	ごみ拾い登校・地区内ごみ拾い	電気使用量、ごみ排出量、給食残滓等調査	花の栽培	水稲、野菜等栽培	ペレットストーブ導入(~22)	雨水利用タンク導入(~22)	太陽光発電導入(~22)	環境学習の取組み	学校いひむす実施項目	総合学習の取組み	環境に対する効果
千代小学校	○	○	○	○	○	7台	-	-	・アサギマダラ(蝶)の観察(敷地内にフジバカマを移植して)(全校) ・善意の川の清掃と川遊び(全校) ・高齢化で耕作放棄された棚田・よこね田んぼの保全活動の手伝い(田植え・稲刈りを通して)(全校) ・千代っ子の森での遊びや自然観察・整備(全学年) ・みどりの少年団(5年生を中心に全校で) ・学級園の野菜やよこね田んぼの米をもとに行った収穫祭・秋祭り(全校児童とその家族) ・ごみ焼却場、最終処分場見学(4年生) 学校周辺の自然に親しむネイチャークラブ(クラブ活動の一つ)	節電・省エネ・省資源の推進(灯油、電気、水道、紙使用量の削減) ごみの分別の徹底(できる限り再利用につなげていく)	千代の森林マップを作る。森での遊びを行うことにより、森林資源を身近に感じられる反面、環境によいものはその分手間がかかり、面倒なこともあるということを感じ理解することができた。地域の方からいただいたフジバカマを移植した数ヶ月後には花が咲き、それを求めてアサギマダラが学校にもやって来たり、捕まえた蝶の中には福島でマーキングされたものがあって、自然に対する不思議さや驚きを感じることができた。川清掃や棚田の保全活動やキャンプや遊びその他の自然体験を通して、普段は余り意識しない地域の方々と交流する機会も増え、大人の技や知恵に子どもたちが教わることも多かった。	
千栄小学校	○	○	○	○	○	3台	1台	-	環境ポスターづくり(3,4年生) 学校花壇、地区花壇の管理(全校) 炭の無人販売(3,4年生) 地区の清掃(歩道・千代駅) 学級農園での野菜栽培(全校)	灯油、電気、水道、紙使用量の削減 使用済みの用紙、封筒などの再利用 ごみの分別やリサイクルの徹底	よこね田んぼの田植え、稲刈り(全校) ふるさと子ども夢学校での農家民泊体験(5,6年生)	体験を通しての活動のため、環境への人々の思いを感じることができた。 地域の清掃や緑化活動を通して、地域を大切にすることができている。
龍江小学校	○	-	○	○	○	8台	1台	-	・ごみ焼却場、最終処分場見学(4年生) ・水資源の利用と再利用など(4年生) ・エネルギー教育にかかわる活動(6年生) 平成22年度認定エネルギー教育トライアル校の指定を受けて ・森林の再生体験学習(6年生) ・ダム・砂防ダム等の見学(6年生)	・灯油、電気、水道、紙使用量の削減、 ・ごみ(燃えるごみ、埋立ごみ)の量の削減	・農業体験とその加工品体験を通じた生活技術の学習 ・飯伊地区における環境への取組みの学習と林業体験 ・水資源の利用と再利用(汚い水をきれいにする装置を作って実際にやってみるなど)	・ペレットストーブの導入とその管理を行うことにより、資源や環境に与える影響などを知ることができた。 ・高学年を中心に見学や学習を通して、環境問題に関心を持ち始めている。 ・6年生は1年間を通して、総合学習の時間で環境やエネルギー、資源などについて、見学や専門家のお出前授業などを多く取り入れた学習を進めた。その結果、環境問題を理解し関心を高めることができた。 ・野菜の栽培(全学級)米の栽培(5年生)や調理体験をし、食の大切さや食に対する知恵などを学ぶことができた。
竜丘小学校	○	○	○	○	○	1台	1台	1台	・児童による環境チェック活動 ・ごみ焼却場、最終処分場見学 ・浄水場、用水路の見学 ・水辺の楽校での水遊び(1,3年生) ・朝顔の栽培・ミニトマトの栽培 ・野菜・稲作り ・昆虫の飼育 ・ヘチマの緑のカーテン	・全校で環境チェックカードによる取組、残渣の削減堆肥化、アルミ缶の回収、紙回収、ごみ収集分別と分別の呼びかけ(児童会) ・電気・水道・紙使用量の削減 ・環境学習の推進 ・親子資源回収と環境整備作業	・自然の中で遊ぶ(水辺の楽校、社会科学習と連携) ・稲刈り(田おこし、田植え、水管理、草取り、稲刈り等) ・子ヤギの誕生と二頭のヤギの飼育、ヤギの口蹄疫対策 ・水引PR大作戦(地域の伝統工芸である水引に興味を持ち活動) ・大豆の秘密を探そう	・ヤギを飼育することにより、自己中心でなく相手のことを考えて世話をしていく姿勢が育った。子ヤギの誕生で生命の大切さを学び、一人ひとりの良さを認める場となった。 ・飯田で有名な水引産業を守りたいと思ひ郷土に対する愛着が育った。 ・大豆の脱穀の大変さを体験し、手作り豆腐のおいしさを実感した。
川路小学校	○	-	○	○	○	1台	-	-	学友林の整備(5年生)	・使用量について、各学期に一度職員会で全体へ報告し、現状把握に努める ・ごみ集め(毎週金曜日)の際に職員が付き添い、分別意識の高揚を図る	・学友林整備 ・畑で作物栽培、収穫体験(全学年)	・残渣量調査等の効果から非常に残渣が少ない。 ・栽培活動から自分で作ったものを食べる喜びを感じることができた。 ・学友林の整備を行い、より身近な森と感ることができた。
三穂小学校	○	○	○	○	○	-	-	-	・ごみ拾い、花の栽培、アルミ缶集め(児童会) ・野菜の栽培(全学年) ・川(蛍・カワナ)の学習(2年生) ・ごみ焼却場、最終処分場見学(4年生) ・水稲栽培(5年生)	・灯油・電気・水道・紙使用量の削減 ・ごみの削減、ごみの分別、環境教育	・しいたけの駒うち体験(みどりの少年団) ・季節の動植物を採集し、自然の恵み(竹の風鈴、季節の料理など)を感じ取る生活科の学習(1年生)	学校いひむす、児童会によるアルミ缶集めやごみ拾いの取組により、ごみの分別・資源節約の意識向上。
山本小学校	○	-	○	○	○	4台	1台	-	・汚水処理場、ごみ焼却場、最終処分場の見学(4年生) ・児童会(福祉委員会)によるアルミ缶収集 ・PTA資源回収への児童の参加	灯油、電気、燃えるごみの削減、印刷物の裏紙利用、古封筒の利用	・学友林の間伐材を利用してのしいたけ栽培 ・畑での作物栽培の学習 ・学校の水田での農業体験と伝統技術の習得	学校の水田での稲作を通して、畦塗りや稲わらによる稲束づくり、はざかけなど伝統の農業技術を体験し水漏れを防ぎ、水資源や資源の有効利用について実感した。 ペレットストーブの導入により、森林資源の有効利用を知るとともに、ペレットによる暖房の心地よさを実感出来た。

学校名	アルミ缶、牛乳パック等回収	ごみ拾い登校・地区内ごみ拾い	電気使用量、ごみ排出量、給食残滓等調査	花の栽培	水稲、野菜等栽培	ペレットストーブ導入(～22)	雨水利用タンク導入(～22)	太陽光発電導入(～22)	環境学習の取組み	学校いひむす実施項目	総合学習の取組み	環境に対する効果
伊賀良小学校	○	○	○	○	○	1台	1台	1台	遠足での桐林クリーンセンター、アースグリーンマネジメントの見学(4年生)	・月毎の電気・水道・紙使用量などの調査および職員への報告 ・それぞれのごみや資源物などの当番制片づけ	ごみについての学習・リサイクルについて(4年生)	リサイクル委員会の集まったアルミ缶の数(その日・累計)の報告や、その後の使われ方の発表が子どもたちの具体的なイメージや集める意欲につながっている。
鼎小学校	○	—	○	○	○	5台	1台	1台	グリーンセンター、ペットボトル再生工場、浄水場の見学	灯油、電気、水道、紙使用量の削減	・牛乳パックから紙を作ろう ・ごみ調べから環境を考えよう ・田んぼで稲作をしよう	・ごみの分別による処理への関心を深めることができた。 ・児童会のリサイクル回収を年間を通して全校へ呼びかけ、全校児童の意識を継続的に持たせることができた。
上郷小学校	○	—	○	○	○	5台	—	1台	・児童会・環境委員会による ごみ分別クイズ・紙資源の収集・休み時間の消灯当番(6年生) ・自動車工業の学習の中でこれからの自動車(エコカー)について考える(5年生) ・国語「身近な記号」の学習の中で、節電・節水に関する記号を作る子が多く見られた(3年生) ・朝顔の観察や身の回りの自然(生き物・草花)と親しむ学習を取り入れている(1年生)	・紙の使用量削減:裏面利用(使用面に「再利用」の印) ・水道メーターの記録(漏水確認も含めて) ・職員室の燃えるごみの横に紙資源用袋を設置し、燃えるごみの中に混じっていた紙資源を処理して意識を高める ・スイッチの横に4年児童の制作した節電ポスターを貼り、給食・掃除等必要のない電気の消灯をする	・生活科で畑での野菜栽培を行った。 ・1年間を通してりんごにかかわり、りんご園の四季の様子を肌で感じながらりんご栽培を体験した。 ・稲作体験を通して減農薬農法について理解した。	・簡単にできそうだと考えていたが、自分で育てる大変さを実感できた。 ・自然の力の影響の大きさを、りんごの成長と重ねて感じる事ができた。 ・再利用できる紙がたまって、電気代も安くなったりすることを実感できた。
上村小学校	—	○	○	○	○	—	—	—	・複式学級なので、二年に一度という形ではあるが、3・4学年がグリーンセンター等を見学している。 ・年度末大掃除等を活用し、掃除の大切さや意味等を定期的に指導している。	・灯油・電気・水道は使用しないときはコンセントを抜いたり、必要最低限の量しか使用しない。 ・使用済み裏紙の再利用等紙使用量削減に努めている。	・各学年が畑で野菜を栽培し、自然との関わりを深めている。 ・全校でノバやさつまいもの栽培を行い、その後ソバ打ちや焼き芋大会等を実施している。 ・高学年では、「みどりの少年団」として開く栽培やしいたけの栽培を行っている。	・クリーンセンター等の見学を行うことで、自分たちの出したごみはどうなるのか、ごみを減らすにはどうしたらよいのかといったことを考えることができるようになった。 ・学期末大掃除では、自分や藩の分担を学校の地図で色分けで示すことで、どこが綺麗になったか、どこが掃除できていないかを把握し、日々の清掃に目標や糸を持って臨むことができるようになった。 ・身近な自然を活用し、自然の中で活動したり、畑の作業や栽培したものを食べたりといった活動で、自然の大切さや自分と自然との関わりを感じさせることができた。
和田小学校	○	—	○	○	○	—	—	—	・お茶の栽培、茶摘み、販売体験活動 4、5年生によって結成されたみどりの少年団がリーダーシップをとり、実施。30kgの茶葉を手摘みで収穫。 ・そばづくり体験学習(3年生) ・ミズの飼育を通しての環境学習(4年生) ・桐林クリーンセンター、最終処分場、リサイクル工場見学学習 ・みどりの少年団による、学校花壇づくり	・ミズ飼育を通しての環境学習 ・灯油、電気、水道、紙使用量の削減 ・グリーン購入推進	・お茶の栽培、茶摘み、販売体験活動 4、5年生によって結成されたみどりの少年団がリーダーシップをとり、実施。30kgの茶葉を手摘みで収穫。 ・そばづくり体験学習(3年生) ・ミズの飼育を通しての環境学習(4年生) ・みどりの少年団による、学校花壇づくり	・お茶の栽培、茶摘み、販売体験という地域の伝統産業の一つであるお茶にかかわる活動を通して、地域のよさ、ひとのよさを肌で感じることができた。 ・ミズの飼育による環境学習を通して、生ごみの処理、土作りなど目に見えないところで環境保全に寄与している生き物のはたらきを実感することができた。 ・クリーンセンターや最終処分場の見学を通し、ごみ処理にかかわる実態を学習することで、ごみ削減に取り組もうとする意欲が高まった。 ・いひむすの活動を通して、職員に「無駄を省く」という意識が浸透しつつある。
飯田東中学校	○	○	○	○	—	1台	1台	1台	・りんご並木育成活動(花いっぱい交流、摘果・除草・収穫・施肥・剪定作業等) ・町内清掃(原則:毎月第一土曜日7:00～) ・リサイクル活動・クリーン登校 ・各教科を通して環境教育についての理解	・飯田のシンボルでもあるりんご並木の育成活動 ・町内清掃を通じた地域の環境美化 ・アルミ缶や牛乳パックの回収 ・リサイクルや分別について学ぶ資源回収 ・清掃活動を通じた環境教育 ・灯油、電気、水道、用紙の使用量削減と、ごみの削減 ・グリーン商品の購入	・並木タイム(学校総合20時間) りんご並木手入れ作業を通して、市街地まちづくりへの参画	・りんご並木への取組みや町内清掃等を通して、自分たちの手で地域社会の環境を造り守っていく心情を高めることができた。 ・毎週水曜日に行っているアルミ缶等の回収やクリーン登校は、学友会環境ボランティア委員会を中心とした活動として充実してきている。学芸会でも、「アルミ缶3万個回収」を活動の重点の一つに据えて取り組み、6万2千個を超えるアルミ缶を収集した。活動を通して、リサイクルの必要性や大切さについての意識も高めることができた。 ・町内清掃やリサイクル活動の取組みについて、「平成22年度循環型社会形成推進功労者表彰知事表彰」を受賞し、環境やリサイクルについての意識を新たにすることができた。

学校名	アルミ缶、牛乳パック等回収	ごみ拾い登校・地区内ごみ拾い	電気使用量、ごみ排出量、給食残滓等調査	花の栽培	水稲、野菜等栽培	ペレットストーブ導入(~22)	雨水利用タンク導入(~22)	太陽光発電導入(~22)	環境学習の取組み	学校いむす実施項目	総合学習の取組み	環境に対する効果
飯田西中学校	○	○	○	○	○	-	-	1台	・林業体験(3年生) ・農業体験(1年生)	・灯油、電気、水道、紙使用量の削減		・間伐体験によって地球環境への関心が高くなった。
緑ヶ丘中学校	○	○	○	○	○	1台	2台	1台	・生徒会によるアルミ缶回収、登校時の通学路ゴミ拾い活動。…強化週間を設け、全校の意識高揚と参加率が高まるよう工夫している。 ・地域との連携…天竜川河川清掃(松尾・竜丘地区)、天竜川・毛賀沢川堤防環境美化活動に参加し、地域の方と一緒に作業を行う。	・灯油、電気、水道、用紙、ゴミ使用量削減 ・給食の食べ残しを減らす取組み ・グリーン商品の購入 ・環境学習の推進 リサイクルの方法・分別について学ぶ。 資源回収。生徒会のボンボン活動。	・環境美化活動 学級花壇づくり。プランターによる花作りをし、玄関に飾る。	・毎週水曜日のボンボン活動(アルミ缶回収、ごみ拾い登校)日には、生徒会が目標参加率を定め、当日の参加率を昼の放送で発表し、意識の高揚を図っている。また、アルミ缶回収の収益金で、交流のある福祉施設に備品を送る活動を行い、ボランティアの意識も高まっている。 ・「いむす」の記録を毎週つけ、リサイクルやごみの分別、節電の見直しを行い、日常生活の改善策を話し合う中で、生徒、職員の意識が高まってきている。
竜東中学校	○	○	○	○	-	4台	1台	1台	・地域の果樹農家でのりんご・なしの袋かけ、摘果作業(全校) ・よこね田んぼの田植え、稲刈り(1年生)	・灯油、電気、水道、紙使用量の削減 ・燃やすごみ、埋立ごみの削減 ・グリーン商品購入の推進 ・環境教育・清掃活動の推進	・1年生 宿泊学習での友達作り、地域の果樹農家学習、地域の伝統行事への参加 ・2年生 職業体験学習、地域の果樹農家学習、広島(原爆に関する学習)生き方の学習 ・3学年 平和体験学習、広島生き方学習、地域の福祉・交流活動、自己進路学習	・りんご・なし袋かけ摘果作業を通して、農家で働くことの大変さや苦労を学んだ。 ・清掃活動を通して、「心磨き」清掃が実践できる生徒になる取組みが理解されてきている。
竜峡中学校	○	○	○	○	○	1台	-	1台	・太陽光発電施設の見学(「総合的な学習の時間」該当生徒)	・灯油、水道、紙使用量の節約 ・空き教室や清掃時にはこまめに消灯する ・ごみ(資源)の分別	・川路のメガソーラーを見学し、生徒がそれぞれ持った疑問などを調査して、文化祭で発表した。	・学校や家庭での電気使用量や家電製品の電力量などを調べ、日常生活での節電への意識が高まった。
旭ヶ丘中学校	○	○	○	○	○	1台	1台	1台	・学級園で農作物の栽培 ・年2回 古紙・段ボール含む資源回収 ・週1回 牛乳パック、アルミ缶回収	・灯油、電気、水道、紙使用量の削減 ・紙、ごみの分別		ごみの分別や再利用に対する意識を育てる大切な場となっている。
鼎中学校	○	○	○	○	-	1台	-	1台	・校内外の美化活動(ごみ拾い、花のプランター設置等) →JRCの一環として、校友会活動として、学年・学級毎の学習の場として	・灯油、電気、水道、紙使用量の削減。 ・プラ、段ボール、紙類のリサイクル、資源としての回収活動の強化	特になし	・生徒、職員共に各種活動や学習を通して関心が高まりつつある。 ・地域の方々や保護者の方との協働作業等を通して、体験的に学べる機会を計画していく必要性を感じる。
高陵中学校	○	○	○	○	○	3台	1台	2台	・資源回収(11月)…有限である資源の大切さ、ごみ問題を体感する。 ・自然体験学習(1年生)…自然観察や自然物を使った創作活動。 ・各教科での環境教育(例:理科「自然と人間、社会:公害の防止と環境保全、保健:健康と環境、技術:菊づくり 等)	・灯油使用量、電気使用量、水道使用量、用紙使用量、燃やすごみ・埋立ごみの削減 ・グリーン購入の推進 ・生ごみの処理	・姫宮(旧校舎)の清掃 ・駅、創造館等の清掃及び環境ポスター製作 ・間伐、枝打ち、コースター作り ・河川等の水質検査	・地域に根ざした取組みや体験が、地域の環境を保護していこうとする気持ちを育てることにつながった。 ・学年に応じた環境問題に関わる学習により、省エネやごみの分別、再利用などへの関心が高まりつつある。
遠山中学校	○	○	○	○	-	-	-	-	・学有林の間伐作業と、切った木材を使っての木工作业。木工作业では、野鳥保護のためにとりつける巣箱を作成。 ・大平キャンプにて、自然体験学習と森林学習を行う。(1年生) ・PTAと生徒会が協力して資源物回収を行う。 ・生徒会でペットボトルのキャップ集め、ゴミ拾い登校、花の苗配りを行い、地域の環境美化に貢献する。	・グリーン商品の購入 ・灯油、電気、水道、用紙、ごみの削減 ・リサイクル、分別 ・環境学習の推進	・1年生は「ふるさと遠山谷をもっと知ろう」ということで、地域の方々への聞き取り調査を行った。まちづくり委員会会長さんの話もお聞きしながら「遠山のこれから」について、自分たちなりに考えたことを発信した。 ・2年生は学年行事である聖岳登山に関わらせ、南アルプスや鬼面山を中心に「山」を題材に学習した。 ・3年生は、去年から引き続き、絶滅危惧種であるブッポウソウや、その他の野鳥の保護活動に取り組んだ。	・使わない電気や暖房を、こまめに消していく姿が見られる。 ・「総合的な学習の時間」の取組みや、生徒会での活動を通して、地域の自然への愛着、畏敬の念、故郷を愛する心が養われていると感じる。

## 5環境学習の推進

### (1) 学びの場づくり

取組の名称	取組内容	環境に対する効果	実施主体	H22決算額(円)	H22款・項・目 (細々目名)
介護保険事業者連絡会での環境学習	○毎月第3木曜日 ○鼎文化センター ○介護保険事業者を対象に飯田市におけるIS014001の取り組みの紹介 地域ぐるみで持続可能な社会を創るために低炭素社会を目指すことについて説明。介護保険事業所においても、環境への取組みに対して協力を呼びかけました。	介護保険事業者の中から、環境改善活動に取り組んでいただけの事業所の拡大を目指します。	介護高齢課	なし	
麻績の里の桜ガイド	小学生を対象にしてガイドを募集し、事前学習会を行い、麻績の里舞台桜を観に来た方へ説明・案内を行いました。	子ども達は地域の貴重な資源を学ぶことができ、桜を通して地域の自然環境について学習するとともに、観桜客へガイドすることにより、地域に対する誇りを持つことができました。	座光寺公民館	なし	
農業体験事業	小学生を対象として、遊休農地における野菜作りを実施しました。苗植えから収穫まで自分達で行い、収穫した野菜の一部は子どもまつりの材料にしたり、地元保育園の給食用に提供しました。	農業体験を通し、農業の大切さを学ぶことで、食と農に対する関心を高めることができます。	座光寺地域自治会 公民館委員会	なし	
杵原広場事業	杵原学校を拠点とし、保育園・小学校・大学・一般の方々と農業体験、古道散策、子供教室などを年間を通して実施しています。地域の自然、文化、歴史を学ぶ山本学講座の開催。	自然とのふれあいの中で環境に対する意識を向上しています。	山本地域づくり委員会 杵原学校応援団	950,000	山本地域づくり委員会会計
環境学習会「“エコ”生活はじめてみませんか」	2/16(水)上久堅公民館にて環境学習会を開催。地球温暖化の影響が身近に感じられるように、農業に与える悪影響を中心として、地球温暖化のメカニズムや具体的な対策などについて学習しました。(参加者25名)	地球温暖化対策として、自分たちに何ができるか考え実践するための良い学習会となりました。また、今回の学習会を通じて、地域住民の環境への関心を高めるきっかけづくりにつながりました。	上久堅公民館、上久堅地区まちづくり委員会環境景観保全委員会	なし	
間伐材を使用した親子木工体験教室の開催	野底山森林公園まつりで、間伐材を使用した親子木工体験教室を実施しました。	森林保全に対する理解を深め、地球温暖化防止に対する意識を向上させることにより、家庭からの二酸化炭素の排出を抑制することに繋がります。	野底山森林公園実行委員会(上郷野底山財産区)	なし	

取組の名称	取組内容	環境に対する効果	実施主体	H22決算額 (円)	H22款・項・目 (細々目名)
新規採用職員研修	飯田市職員として採用後約3か月を経過し、ある程度職務の状況を把握できた時期に、市内各分野の施設等を見学しました。環境関連では、飯田市最終処分場、飯田市堆肥センターを視察しました。	市政全般への関心を高めるとともに、視察を通して環境文化都市に対する関心を高めることができます。	人事課	なし	
消費者としてのリサイクル実践事業	1 環境学習 11/18 下久堅風の学舎 環境学習の実践婦人会役員10名参加 2 環境講話 2/7 松尾公民館 環境講話 講師平澤和人氏「美しい郷土を未来へ」参加者95名	住の地産地建が環境を守り地域を蘇らせるとの副題の付いた講演で男性の参加も数多くありました。初年度としては、盛り上がりのある講演会となり環境について関心を持って貰える良い機会となりました。	男女共同参画課 飯田市連合婦人会	58,000	02-01-07-11 (消費生活推進事業費)
地域ぐるみ環境ISO研究会の活動	31の事業所により構成する研究会活動を実施しています。飯田・下伊那地域で独自の環境マネジメントシステム「南信州いむす21」の普及を通じて、地域全体の環境改善活動のレベルアップに取り組む活動をしています。	研究会活動を通じて地域の事業所が連携し、環境改善への取組みが展開されています。	地域ぐるみ環境ISO研究会 地球温暖化対策課	なし	
ISO14001相互内部監査実施	飯田市役所などのISO14001相互内部監査に参加しました。	環境マネジメントシステムの仕組みを学習する機会につながりました。	地域ぐるみ環境ISO研究会 地球温暖化対策課	なし	
自治会・衛生組合などとの連携による苦情への対応	複雑多岐にわたる公害苦情が発生するため、各地区まちづくり委員会、各地区環境衛生担当委員会等と連携して対応を行うとともに、環境保全に関する説明会等の開催によって普及啓発活動を行いました。	苦情の解決に向けた効果を発揮しています。	各地区まちづくり委員会 各地区環境衛生担当委員会 環境課	なし	

(2) 自然とのふれあい事業の推進 (\*はリーディング事業)

取組の名称	取組内容	環境に対する効果	実施主体	H22決算額 (円)	H22款・項・目 (細々目名)
ハナノキウォーキング	公民館主催で6月に、ハナノキの自生地を觀賞していただくために開催しました。ハナノキ友の会の方に講師をお願いし、延べ4名の参加がありました。	地区内の植生を知り、豊かな自然環境を実感してもらいました。	山本公民館	5,000	10-05-04 (公民館事業費)
松尾の川の水中生物をつかまえよう	6月12日(土)に講師による説明の後、松尾保育園東側の中溝川にて、川の動植物を採集し、公民館で観察。 希望者は家に持ち帰り飼育・観察。 参加人数 地区児童・保護者約100人	遊びながら川の自然に触れ、環境を大切にする心を育てます。	松尾地区青少年健全育成会	52,715	松尾地区青少年健全育成会 会計
ラフティング体験教室	7月10日(土)に弁天橋付近のポイントからかわらんべ付近のポイントまで約10kmのラフティング体験をしました。 参加者は15人(大人11名。子ども4名) また、地元松尾新井に事務所を置く、アルプスぼうけん組楽部に川で流されたときの対応等を指導してもらいました。	普段入ったり遊んだりする事のない天竜川でラフティング体験を行う事で、天竜川やその周辺の自然に触れ、今の天竜川の現状を知り、自然に対する関心が高まります。	松尾公民館(企画委員会) アルプスぼうけん組楽部	36,100	まちづくり委員会 公民館会計
農業体験講座「まけるな農園」	5月下旬から12月上旬にかけて地区内の親子(未就学児・小学生)15組(子ども23人)が参加しました。 松尾明にある遊休農地を借用し、以下の活動を行いました。 6月 土起こし、サツマイモ・ポップコーン苗植え 7月 大豆の種まき、草取り 8月 中間収穫祭 10月 サツマイモ・ポップコーン収穫、ハロウィンカボチャ収穫、ハロウィンパーティ 11月 JA松尾収穫祭参加 12月 大豆収穫 2月 豆腐作り教室、収穫祭	農作物の播種、育成、収穫することを通じて、農作物(植物)や自然に対する関心が高まります。	松尾公民館(企画委員会) 松尾地区農業振興会 JA	167,823	まちづくり委員会 公民館会計
野底山森林教室の実施	8月9日に野底山森林公園で、上郷小高学年を対象とし、木工体験教室とツリークライミングを柱とした野底山森林教室を開催しました。	子どもたちが森林との触れ合いを通じ、森林への理解と関心を深め、その大切さを学び、自然環境保全への理解を深めることができます。	野底山活用協議会 (上郷野底山財産区、上郷公民館、NPOグリーンプロテクション共催)	118,500	上郷地域まちづくり委員会会計

取組の名称	取組内容	環境に対する効果	実施主体	H22決算額 (円)	H22款・項・目 (細々目名)
野鳥観察会	7月10日(土)に親子を対象に、自分たちが暮らす地域の自然環境を見つめ直し、環境に対する意識を高めるきっかけとするため、遠山中学校の田畑先生と3年生を講師として下栗の里を歩きながら野鳥観察を実施しました。26名の参加がありました。	当日はあいにく野鳥の種類はあまり多く観察できませんでしたが、野鳥の姿や鳴き声の特徴を知ることができました。また、中学校でも学習に取り組んでおり、自然環境豊かな上村の魅力を伝える機会となりました。	上村公民館 上村図書館	3,000	10-05-04 (公民館事業費)
千代ウォーキングマップの活用	千代地区内を6コースに分けて、各地区ゆかりの場所を設定してあります。このマップをもとに改めて千代のすばらしさ、自然の豊かさ、文化的な価値の高さを見つめ直す機会として活用していただくことを目的としています。	歩くことで自然を感じ、ふるさと千代のよいところを再発見できます。	千代公民館	5000	千代地区まちづくり 委員会会計
ワーキングホリデーの実施	農業や農村に関心を持ち真剣に農業をやりたい方や就農を考えているが具体的な方法や手段がわからない方々と、繁忙期の手助けや後継者が欲しい農家を結び、お互いの足りないところを補う「パートナーシップ事業」です。 平成22年度は、春2回、秋2回、通年で452人が延べ1,918日飯田市を訪れました。	農山村の良さの認識度アップにつながります。新規就農者の獲得につながります。	農業課	1,105,530	06-01-03 (農業担い手誘致 事業費)

(3) 飯田市のイメージづくり及び情報発信 (\*はリーディング事業)

取組の名称	取組内容	環境に対する効果	実施主体	H22決算額 (円)	H22款・項・目 (細々目名)
「飯田のおいしい水」(PRガラス瓶)使用	行政視察に来飯した議会議員等の皆さんに、「飯田のおいしい水」(PRガラス瓶)を視察時に使用し、飯田市の環境に対する取組みとしてPRを行いました。 期間 5月～9月 使用数 13市町村 147本	視察に訪れた議員から、「水のおいしさ」と、「PRガラス瓶使用」の両面から、取組みを評価いただきました。	飯田市議会	なし	

取組の名称	取組内容	環境に対する効果	実施主体	H22決算額(円)	H22款・項・目 (細々目名)
環境標語の掲載	納税通知書等の封入用封筒に環境標語を掲載し啓発しました。 「アイドリングストップで地球にやさしい思いやり」軽自動車税34,418件 「アイドリングストップで地球温暖化防止」固定資産税42,562件 「緑ある地球を未来につなげたい」市民税37,278件	温室効果ガス削減のPR	税務課	1,499,100	02-02-02(賦課費) ・窓あき封筒代
環境情報の提供	環境モデル都市のホームページにより、積極的な環境情報の提供を心がけています。	市民に対し、情報を提供する手段として重要な位置付けとなっています。	地球温暖化対策課	7,250	04-01-05 (新エネルギー推進事業費)
環境モデル都市の地区説明会実施	飯田市は、平成21年1月22日に環境モデル都市に指定されましたが、その取組みについて市民に理解していただくため、地区の定例会にあわせてモデル都市の説明会を実施しました。 【20地区20回開催】	環境モデル都市は行政だけの取組みではなく、市民の理解も得ながら進めていく事業が多いです。各地区の代表に説明をすることにより、環境行政への理解促進となります。	地球温暖化対策課	なし	
環境首都コンテストへの参加	飯田市は、平成22年度持続可能な地域社会をつくる環境首都コンテスト第10回(環境首都コンテスト全国ネットワーク主催)に応募し、総合で全国58自治体中第2位(前年度58自治体中第2位)、人口規模別(10万人以上30万人未満)で16自治体中第1位(前年度20自治体中第1位)となり、明日の環境首都賞を受賞しました。	飯田市が、客観的どのような評価を得ているかを確認し、今後の取組みに生かすことができます。	環境課 地球温暖化対策課	なし	
先進自治体との連帯	環境自治体会議は、環境に対し深い関心を持ち、積極的な環境政策の推進を目標とする自治体のネットワークです。市も平成10年度に加入しました。環境自治体会議ニュースや、全国大会など参加しながら、参加自治体との情報交換を行っています。平成22年度は、5月26日～28日に福岡県で開催されました。	環境問題に積極的に取り組んでいる自治体と情報交換をすることで、市の環境政策をより良いものにしていくことができます。	環境課 地球温暖化対策課	70,000	04-01-05 (地域環境計画推進事業費)
見てみよう 環境施設	6月の環境の日、環境月間に因み、飯田市内の水道・環境施設の見学会を行いました。水道施設、下水処理施設及び最終処分場施設の各担当者が施設の案内をし、一般市民15人の参加がありました。	市民の意識向上と啓発に繋がりました。	環境課 水道課給水係 下水道課	なし	
生活と環境祭り開催	行政機関と市民団体や事業者との協働により「生活と環境まつり2010」を10/16～17に開催しました。市民3,200人の参加者があり、展示・体験を通じて環境意識の推進ができました。新たなイベントとして、電気自動車の試乗体験や家庭での省エネ講習会を行いました。	市民の意識向上と、啓発に効果を高めました。	環境課 保健課 男女共同参画課	802,000	04-01-05 (環境教育推進費)

取組の名称	取組内容	環境に対する効果	実施主体	H22決算額(円)	H22款・項・目 (細々目名)
日本ゴルフツアー機構との交流事業	○宍戸ヒルズCCにおいて開催された日本ゴルフツアー選手権で、木工体験教室の開催と間伐材を利用した木工製品等の販売を実施しました。 ○よみうりCCにおいて開催されたミズノオープンで、地元中学生に対する木育(環境学習)を実施しました。	○参加者が楽しみながら、森林に対する理解を深めることができ、結果、地球温暖化防止に対する意識の向上に繋がります。 ○飯田市の環境活動等PRの場となります。	上郷野底山財産区	なし	

(4) 市民参加の推進(\*はリーディング事業)

取組の名称	取組内容	環境に対する効果	実施主体	H22決算額(円)	H22款・項・目 (細々目名)
グリーンコンシューマー活動への支援	環境問題を買う立場・行動から考え、ごみ削減をはじめ地球温暖化防止等の活動や、3Rを推進するグリーンコンシューマー活動を行う団体です。今年度も昨年度に引き続き、南信州レジ袋削減推進協議会が毎月行うレジ袋削減の店頭啓発活動に市内の店舗で行われる際に参加するなどの活動を行いました。また、学校給食から排出される食品残渣の利用可能性について調査・検討を始めました。	ごみ削減や、CO2削減に対する意識向上につながる動きとなりました。	グリーンクラブい〜だ	なし	
地域ぐるみ環境ISO研究会の機関紙発行	研究会機関誌「ぐるみ通信」第307号から315号(9号)発行、研究会や地域の取り組み、環境に関わる社会の動きなどを発信しています。研究会参加事業所、南信州いいむす21登録事業所、地区内外約1,200人に提供しました。	環境改善の意識づくりに繋がりました。	地域ぐるみ環境ISO研究会 地球温暖化対策課	なし	
アンケート調査の実施	市民の、居住地域の生活環境に関する満足度、環境に対する意識やニーズを把握するため、環境に関する住民アンケートを実施しました。 「資料編 第4章 1 住民アンケート集計表」参照	市民の環境に対する意識の高さ及びニーズを把握することで、より効果的な施策展開ができます。	地球温暖化対策課	73,500	04-01-05 (地域環境計画推進事業費)
環境ネットワークの活動	環境保全活動などを実施している市民団体によるネットワーク「環境ネットワークいいだ」が平成12年に組織されています。適宜「ネットワーク通信」による情報提供や、活動の案内などを実施しています。	情報の共有化による環境教育・環境学習の推進に寄与しています。	環境課	なし	
環境アドバイザーの活動	飯田市では、環境に関する専門的な知識又は技術を持っている人を環境アドバイザーとして登録し、市民の要望に応じて研修会、学習会及び観察会の場へ派遣をしています。 環境アドバイザーの任期は2年で、平成22年度～平成23年度の登録者は10人となっており、上記の活動の他にも10月に行われた「生活と環境まつり2010」にも実行委員会へ参画するなど活動を行いました。	「21' いいだ環境プラン」の推進のための意識づくりに、行政と市民の間のパイプ役として、重要な役割を果たしています。	環境課	458,810	04-01-05 (環境教育推進費)

取組の名称	取組内容	環境に対する効果	実施主体	H22決算額（円）	H22款・項・目 （細々目名）
環境調査員による調査活動	<p>地域の身近な環境の様子を調査し、環境行政の施策の参考とすることを目的として、平成6年度から環境チェッカー制度による環境調査を実施しています。環境チェッカーは、次のような活動を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「指標動植物調査」身近な自然環境が保たれているか、その指標となる動植物を季節ごと報告してもらっています。</li> <li>○市内中心部を流れる松川の上流及び中流2箇所「水生生物観察会」を実施し、水生生物による水質の判定を行いました。</li> <li>○任期は2年間で、大人42人・子ども66人の108人が市内全域で環境調査活動を行っています。</li> </ul>	<p>調査活動を実施することにより地域環境への関心が高まると共に、調査結果は貴重な環境資料として広く活用できます。</p>	環境課	436,817	04-01-05 （環境教育推進費）